

<b>Title</b>	民間レベルの対北朝鮮人道支援についての現況と分析
<b>Author(s)</b>	任, 成彬
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所紀要, 第50号別冊 日・韓国際学術シンポジウム「東アジアの平和と民主主義」特集号, 2011.3 : 74-77
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3160">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3160</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

## 民間レベルの対北朝鮮

### 人道支援についての現況と分析

任 成 彬

ありがとうございます。短い時間の中で報告書を中心にできるだけ早くお話ししたいと思います。資料集七五ページをご覧ください。朝鮮半島をめぐる緊張がいつよりも高まっている状況の中で、対北朝鮮人道支援についても新しい課題が浮上しています。現実的に大韓民国では、対北朝鮮人道支援に関しては相反する評価が存在します。人道的支援という言葉が無意味にするほど、

イデオロギー的党派を再生産して国内の葛藤の原因となるという、大変望ましくない現実があります。

このような意味から、転換期的な状況での対北朝鮮人道支援、特に民間レベルでの人道支援を論じる際に、私たちは民間の対北朝鮮人道支援についての客観的評価と必要性を明らかにする必要があります。今行っている支援の現況を分析して、ほかの支援、すなわち政治的レベルと経済的レベルの支援及び機関レベルの支援とはどのように異なるかということを確認することによって、民間レベルの対北朝鮮支援でできることは何かという点をもう少し明らかにする必要があります。

特に、支援の動機、持続性、動員の能力を考えますと、韓国内で宗教が持っている力は大変大きいと思います。そういう意味で宗教的なレベルの対北朝鮮人道支援に特に関心を持たなければならぬと思います。ところで、ここではあらゆる宗教レベルの支援全体についてはお話しできませんので、プロテスタントに限って申し上げます。

まず、対北朝鮮支援に関する評価と基準はご存知のよ

うに大きく二つに分けられます。一つは、我々が対北朝鮮人道支援をしたため、北朝鮮の対韓国依存度が深まり、市場化が加速されて、結局、南（韓国）側が望む方向で統合的な統一に進んでいく近道になるという主張があります。他方、人道支援を際限なく行ったために北朝鮮の崩壊が遅くなって改革・開放に誘導することに失敗し、結局は北朝鮮の挑発の力量を大きくする結果をもたらしたのではないかとする主張です。このような相反する評価が共存しています。そういう面で韓国政府は二つの批判、相反する見解を調和させるべき立場にあり、また企業では経済的な次元を念頭に置いて対北朝鮮人道支援を行っています。

しかし、民間レベルの対北朝鮮人道支援は政治的レベル、経済的レベルとは違う差別性を持つ必要性があります。そういう意味で、民間レベルの対北朝鮮人道支援の基準と目標を明らかにしなければならぬと思います。暫定的に、対北朝鮮人道支援の基準と目標は、何よりも「北朝鮮の為政者ではなく北朝鮮住民の生活の質（quality of life）の改善」に焦点を当てて、人間として基本的な

暮らしができるようにするということを我々も共有できるのではないかと思います。しかし、これは一方的に北朝鮮にだけ限るものではなく、韓国にも課題があります。離散家族の再会、北朝鮮への拉致被害者問題、（北朝鮮の）韓国軍捕虜の釈放問題なども一緒に議論すべき課題だと思います。

そのような意味から、現在の韓国の対北朝鮮人道支援の現況を分析してみますと、特に民間レベルでの対北朝鮮人道支援が占める比率が大変高いということがわかります。二〇〇四年の対北朝鮮人道支援の場合は北朝鮮予算の五・三%を占めていたとされています。もちろんこれは、龍川（ヨンチョン）災害（列車爆発事故）が起ったためですが、これを見れば、対北人道支援が北朝鮮に対してかなりの影響力があるということは確認できると思います。韓国では、個別事業、（複数の団体などが合同で行う）合同事業、政策事業、北朝鮮の乳幼児支援事業など、四つの対北朝鮮人道支援が行われています。これらの差異は、過去には一過性で緊急救護の次元で行われましたが、今は戦略的かつ長期的な次元で取り組むた

めの努力が目立つと言えます。

最後に八二ページです。民間レベルの対北朝鮮人道支援の特徴を見ますと、やはり対北支援は政治的な状況と有機的な関係があるため、政治的な状況が悪化すると、対北人道支援は当然減るしかありません。そういう意味で政治的、経済的、戦略的レベルではわかりませんが、少なくとも民間レベルでの対北人道支援が二〇〇八年以後にもたゆまず、ほかの支援に比べて継続的に行われてきたことは励みになります。

我々がある程度合意できることは、第一に、北朝鮮の社会的弱者の生活に焦点を合わせなければならないという事です。もちろん人道支援の方法や手続さも住民の生活の質の向上に焦点を合わせ、支えることができなければならぬという前提が必要です。第二に、南北間の人道協力の互恵性を高める次元でアプローチしなければならぬと思います。第三に、韓国だけでなく、国際社会との協力を図りながら、ともに行っていくかなければいけないという方向性を考えることができるでしょう。

それにもかかわらず、遠藤大使のほうからお話があ

りましたが、北朝鮮の核問題や天安艦爆沈事件などによつて、対北人道支援を続けることは大変難しい状況です。政治的、戦略的なレベルでもこういったことを着実にやっていくことは大変難しい点があります。民間レベルの対北支援、特に北朝鮮住民に対する、基本的な人間としての生活の質を支え、同時に韓国の目標（目的）と一緒に達成して行くためには、何か政治的、経済的、戦略的レベルとは完全に分離することはできないものの、何か異なる差別性を担保できるようにしなければならぬと思います。

そうした差別性を引き続き維持できるのが宗教界であると思います。もちろん宗教界がナイーブで特定の政治的な目的で利用されることもあり、そうした事例を目撃したりすることもありますが、原則的な意味での宗教界が行うことができる差別的な支援については、我々が引き続き模索できると思います。それで宗教的なレベルでの対北人道支援を見ますと、これまで民間団体の対北支援において、四〇・二九％はプロテスタント系が担っているということがわかります（資料集、八四頁）。

ですから、李明博政権になってから、さまざまな状況

した。（拍手）

の中で政治的、戦略的なレベルでの困難は依然としてありますが、基本的には民間レベルの対北支援は政治的なレベルの従属変数に止まってはならないと思います。韓民族の利益と北東アジアを超える世界平和に貢献できる、平和な統一、我々が望む建設的な（南北）統一のために、民間レベルの対北支援は政治・経済的なレベルを超える価値と理想、それによる原則を維持するように努力すべきです。

もちろん、だからといって、大変ナイーブに、一方に利用されることから脱することができる、聖書的に申し上げますと、ハトのように素直でありながらヘビのように賢いという知恵も必要であると思います。宗教界も専門家たちとの対談を通じて挑戦を引き受けなければならぬと思います。

結論的に、人間の生活の質に対する超越的な価値を保障するという意味で、または韓国社会において現実的に重要な役割を担っている宗教の役割が、さまざまな面で切実に要求されていると思います。ありがとうございます